

アール・ブリュット移動美術館 with ARA・SHI アートギャラリー

熊本県立荒尾支援学校

1 本校の美術教育について

本校では、美術教育で子どもたちの感性を育み、併せて、地域啓発の充実に力を入れています。授業の内容は、各学部の実態に合わせて制作活動を中心に行います。今年度は、季節や行事にあわせた作品制作、モダンテクニックを使った作品制作、グループ制作などを行いました。中学部では、ICT機器を活用し、デジタルカメラを使ったトリックアートにも挑戦しています。作品は校内に展示し、来校された方や子どもたちが鑑賞できるようにしています。作品の感想をもらうと、子どもたちはとても嬉しそうです。作品展示は、学部を越えたコミュニケーションのきっかけづくりにもなっています。また、今年は、アールブリュット・パートナーズ熊本が主催されている移動美術館と合同でARA・SHIアートギャラリーを開催し、作家の方々の作品と共に、子どもたちの作品を展示しました。

2 卒業生の美術活動について

平成24年度卒業生の荒木聖憲さんは、「ちぎり絵で有名になる！」という夢を持ち、在学中から制作や公募展への出品、校外での展示などに積極的に取り組んできました。卒業後も、アール・ブリュットパートナーズ熊本をはじめ、たくさんの方に支援・応援をいただき活動を行っています。制作活動を通して、人との関わりが増え、自信を持って色々なことに挑戦していく荒木さんの姿は、在校生や本校職員の刺激にもなっています。今回のアートギャラリーでは、荒木さんの作品コーナーを設けました。仕事以外に自分のやりがいを見つけて活躍する先輩の姿は、子どもたちが卒業後の自分の姿をイメージする良い指針となっています。

3 アール・ブリュット移動美術館 with ARA・SHI アートギャラリーについて

本校行事「ARA・SHIまつり」にあわせて、10月24日から11月6日まで開催しました。作品名を書くキャプションや作品一覧表、チケットなどの制作を高等部3年生が担当し、カラフルでユニークなキャラクターが登場する手作り感あふれる作品展となりました。体育館で開催したまつり当日の来場者は203名。その後は場所を会議室へと移して展示を行いました。移動美術館の作品の繊細さやダイナミックな作品に対しての驚きや賞賛とともに、本校児童生徒作品のユーモアのある作品や温かな作品に笑顔になれる来場者の姿をみることができました。アンケートにもたくさん感想を書いていただき、子どもたちは「次はこんな作品をつくらう！」と制作への意欲を持ったようでした。また、普段は制作や作品鑑賞に関心を示さない生徒が、ある作品の前で立ち止まりじっと見つめている姿も見られました。生の作品にふれることは子どもたちの持っている感性を刺激し、制作した作品に対しての感想は、子どもたちの自己肯定感を高め、社会との関わりを求める意欲に変わっていくのではないかと思います。

今回の取組で、言葉や文字だけではない作品を通じての自己の表現、コミュニケーションの可能性を感じることができました。自然や身の回りにあるものの美しさや面白みを感じる感性や自分のこうしたいという思いを形にできる表現力を育む美術教育、そして、地域の啓発をめざした本校の様々な教育活動について発信できる環境づくりを行っていきたいと思います。卒業後の社会参加につなげていくことを目指して、取り組んでいきます。

